

# 漁況海況予報事業 (昭和55年度)

川口哲夫・佐野 茂

## 1 実施状況

### (1) 実施機関および担当者名

鳥取県水産試験場

境港分場長 佐野 茂

研究員 川口哲夫

第一鳥取丸乗組員 13名

### (2) 沿岸定線調査

#### イ 実施調査船

船名 第一鳥取丸

船長名 早野一成

乗組員数 13名

調査船要目

噸数 99.14トン、馬力400HP、速力8.5ノット、測深機3HP、ワイヤー長1,500m

魚群探知機

機種 産研製T・L-16(379)型

周波数 28kc、75kc、200kc

測深範囲 0~1,600m、記録紙湿式

その他の観測機器

B・T、防・被圧転倒寒暖計、電気水温計、透明度板、転倒採水器、㊦ネット、Norpac - Net,

㊦ネット長さ4.5m、口径130cm

#### ロ 観測定線概要図(別図のとおり)

#### ハ 調査項目

気象 (天候、風向、風力、気温、気圧、雲量、雲形)

海象 (水色、透明度、波向、波浪、ウネリ、海深、汐目、海鳥、海光、変色水、急潮、海鳴、海流)

魚卵、稚魚、プランクトンの採集

測温 (観測層 0、10、20、30、50、75、100、150、200、300m)

塩検用採水 (観測層 同上)

ニ 実施概要

調査年月日	船名	測点数	欠測点数	調査員名	備考
4月 3日～ 4日	第1鳥取丸	31	2	早野一成 (川口哲夫)	
9月 1日～ 5日	〃	30	1	〃	
10月 1日～ 2日	〃	20	0	〃	
10月30日～11月7日	〃	20	0	〃	
3月11日～ 14日	〃	26	8	〃	

(3) 漁場一斉調査

イ 実施調査船

沿岸定線調査と同じく第1鳥取丸を使用し調査船要目も同様である。

ロ 観測定線概要図

別図のとおり

ハ 調査項目

気象・海象・卵稚仔・プランクトン採集・測温・塩検用採水については沿岸定線観測と同様であるが、この他にスルメイカ釣獲試験を実施した。

ニ 実施概要

調査年月日	船名	測点数	欠測点数	調査員名	備考
9月 1日～ 5日	第1鳥取丸	30	1	川口哲夫	

2 調査研究結果

(1) 海洋状態と推移と特徴

4月： 4月上旬の山陰沖合における海況は、表面水温が沿岸部で13～14℃、沖合では10～20℃台、50m層では沿岸部で12～13℃、沖合では9～12℃台であった。暖水域は隠岐島周辺にあってオキ堆海域と隠岐島北西沖合に張りだしていた。冷水域は竹島海域より日御崎沖合に張りだしており、一方、隠岐島北方には強勢な冷水域が張りだしていた。水温の平年差は表面水温が平年並、50m層では平年並かやや低めに経過した。

6月： 6月上旬の海況は表面水温が沿岸部で19～18℃、沖合が16～18℃台であり、50m層では沿岸部で16～18℃、沖合が10～15℃台であった。暖水域は隠岐島西側より竹島海域に強く張りだし、その先端は北東に向かって大和堆海域に張りだしていた。

冷水域は竹島海域より浜田沖に強く張りだしており、一方、オキ堆海域にも強勢な冷水域があって隠岐島北方および鳥取県沖合に強く張りだしていた。

水温の平年差は表面では1℃低め、50m層では暖水域上で1～2℃高め、冷水域では平年並か1℃低めで経過した。

7月： 7月上旬の山陰沖合における海況は表面水温が沿岸部で21～22℃、沖合では19～21℃台であり、50m層では沿岸部が18～19℃、沖合で12～17℃となっている。暖水域は日御崎沖

より北方に張りだしており、その勢力は極めて強勢である。冷水域は竹島沖合より浜田沖合へ強く張りだしており、一方、隠岐堆上にも強勢な冷水域があり隠岐島北東より網代沖に張りだしている。

水温の平年差は表面水温が沿岸部で平年並か $1^{\circ}\text{C}$ 低め、 $50\text{ m}$ 層では沿岸部で平年並か、 $1^{\circ}\text{C}$ 低め、沖合の冷水域では $2\sim 4^{\circ}\text{C}$ 低め、暖水域では $1\sim 2^{\circ}\text{C}$ 高めであった。

**8月：** 8月上旬の海況は表面水温が沿岸部で $23\sim 25^{\circ}\text{C}$ 、沖合では $22\sim 23^{\circ}\text{C}$ 台、 $50\text{ m}$ 層水温は沿岸部で $18\sim 22^{\circ}\text{C}$ 、沖合では暖水域上が $16\sim 18^{\circ}\text{C}$ 、冷水域上では $11\sim 16^{\circ}\text{C}$ 台であった。暖水域は隠岐島北方海域に広く張りだしており、冷水域は竹島の南側において浜田沖から隠岐島北西海域に張りだし、一方、オキ堆上にも冷水域が網代沖に張りだしていた。

水温の平年差は夏期の異常低温の影響によって表面では $2\sim 3^{\circ}\text{C}$ 低めであり、 $50\text{ m}$ 層では沿岸部が $1^{\circ}\text{C}$ 低め、沖合の暖水域上では平年並か $1^{\circ}\text{C}$ 高め、冷水域上では $1\sim 2^{\circ}\text{C}$ 低めとなっていた。

**9月：** 9月上旬の海況は表面水温が沿岸部で $24^{\circ}\text{C}$ 沖合では $22\sim 23^{\circ}\text{C}$ 台、 $50\text{ m}$ 層では沿岸部が $19\sim 21^{\circ}\text{C}$ 、沖合の暖水域では $15\sim 19^{\circ}\text{C}$ 、冷水域では $7\sim 15^{\circ}\text{C}$ 台であった。暖水域は隠岐島より北方に張りだし大和堆海域に達している。冷水域は竹島北方より南に張りだしている強勢な冷水域があり、一方、オキ堆海域より網代沖にも張りだしていた。

水温平年差は表面水温が $2\sim 3^{\circ}\text{C}$ 低め、 $50\text{ m}$ 層でも $2\sim 3^{\circ}\text{C}$ 低めで経過していた。

**10月：** 10月上旬の海況は表面水温が沿岸部で $22^{\circ}\text{C}$ 、沖合では $21\sim 22^{\circ}\text{C}$ 台、 $50\text{ m}$ 層は沿岸部が $20\sim 22^{\circ}\text{C}$ 、沖合では冷水域上が $16\sim 19^{\circ}\text{C}$ 、暖水域では $20\sim 21^{\circ}\text{C}$ 台であった。暖水域は隠岐島より北方に張りだし北東寄りに広がっていた。島根沖冷水域は竹島海域より南にはりだしその先端は日御崎沖に達しており、一方、オキ堆上にも冷水域が隠岐島東側に張りだしていた。

水温の平年差は表面で平年並かやや低め、 $50\text{ m}$ 層では暖水域上で平年並か $1^{\circ}\text{C}$ 高め、冷水域では $1\sim 2^{\circ}\text{C}$ 低めに経過している。

**11月：** 11月上旬の海況は表面水温が沿岸部で $19\sim 20^{\circ}\text{C}$ 、沖合では冷水域上で $16\sim 18^{\circ}\text{C}$ 、暖水域上は $19\sim 20^{\circ}\text{C}$ 、 $50\text{ m}$ 層では沿岸部が $20\sim 21^{\circ}\text{C}$ 、沖合では $17\sim 18^{\circ}\text{C}$ 台であった。暖水域は日御崎より隠岐島北方に張り出しておりその勢力は強い。冷水域は島根沖冷水域が竹島海域より南西方に張りだし、その周辺には強い潮目が形成されていた。一方、山陰・若狭沖冷水域はオキ堆上において南に張りだしていた。

水温の平年差は表面では沿岸部で $1^{\circ}\text{C}$ 低め、沖合では $1\sim 2^{\circ}\text{C}$ 低めであり、 $50\text{ m}$ 層では沿岸部でやや低め、沖合では $1^{\circ}\text{C}$ 低めであった。

**12月：** 山陰沖合における12月上旬の海況は、表面水温が沿岸部で $18^{\circ}\text{C}$ 、沖合が $16\sim 17^{\circ}\text{C}$ 台、 $50\text{ m}$ 層では沿岸部で $17\sim 18^{\circ}\text{C}$ 、沖合が $14\sim 17^{\circ}\text{C}$ 台であった。暖水域は日御崎沖より隠岐島北東沖合に張りだしておりその勢力は強い。

冷水域は竹島海域より隠岐島北西及び浜田沖に強く張りだしており、一方、オキ堆海域より隠岐島の東側に張りだしている冷水域が認められた。

水温の平年差は表面が沿岸・沖合ともに、平年並かやや高め、 $50\text{ m}$ 層では沿岸部で平年並かやや高め、沖合では冷水域上が平年並かやや低めであったが、暖水域では高めに経過していた。

**2月：** 2月上旬の海況は表面・ $50\text{ m}$ 層水温ともに沿岸部で $11^{\circ}\text{C}$ 台、沖合では $8\sim 10^{\circ}\text{C}$ 台であった。暖水域は隠岐島北東方に張りだしており、冷水域は竹島海域とオキ堆北方海域よりそれぞれ強く張り

だしていた。

水温の平年差は表面・50m層ともに1℃低めとなっていたが島根沖冷水域上では2～3℃低めで経過した。

**3月：** 3月上旬の山陰沖合における海況は、表面水温が沿岸部で10～11℃、沖合では6～10℃台、50m層では沿岸部が10～11℃、沖合では6～9℃台であった。暖水域は隠岐島周辺より北方に張りだしており、冷水域は竹島海域より隠岐島西側に強く張りだしてこの海域には強い潮目が形成されている。一方、オキ堆北方にも冷水域があり南に張りだしていた。

水温の平年差は表面水温が1～2℃低め、50m層も1～2℃低めに経過していた。

## (2) 主要魚種の漁況の推移と特徴

**4月：** 大・中型巾着網：漁獲量は16,430トン、1日1統当り83トン、魚種の割合はマイワシ68%、サバ30%、ウルメイワシ1%であった。4月では中羽イワシ主体に漁獲は好調であったが、サバの漁獲量が減少したのが特徴である。

小型巾着網：漁獲量は5,099トン、1日1統当り38トン、魚種の割合はマイワシ76%、サバ20%、ウルメイワシ2%、アジ2%であり、中羽イワシ主体に小サバが漁獲され漁況はきわめて好調に経過しマイワシ資源の増大が認められた。

**5月：** 大・中型巾着網：漁獲量は19,318トン、1日1統当り66トン、魚種の割合はマイワシ58%、サバ35%、ウルメイワシ5%、アジ1%で、中羽イワシ主体に小サバが漁獲され漁況は順調に経過した。しかし、サバの漁場が隠岐島の東側極沿岸域に形成されたために、大・中型巾着網漁船が入域できずサバの漁獲量は近年では最低であった。

小型巾着網：漁獲量は4,369トン、1日1統当り26トン、魚種の割合はマイワシ52%、サバ30%、ウルメイワシ11%、アジ3%、その他3%であり、中羽イワシ主体にサバの漁獲も多く漁況は好調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が318トン、1航海当り2.1トン、冷凍船は240トン、1航海当り10.0トン、合計558トンであった。本年も昨年・一昨年と同じく5月は漁況がきわめて低調であり昨年並かやや増加したのにとどまった。

**6月：** 大・中型巾着網：漁獲量は10,574トン、1日1統当り38トン、魚種の割合はマイワシ49%、サバ31%、ウルメイワシ20%であり、中羽マイワシ、大・中羽ウルメイワシの漁獲が急増し漁況は順調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は4,153トン、1日1統当り21トン、魚種の割合はマイワシ45%、サバ25%、ウルメイワシ23%、カタクチイワシ3%、その他3%、アジ1%であり、中羽マイワシ、小サバ、大・中羽ウルメイワシが漁獲され漁況は好調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が792トン、1航海当り3.7トン、冷凍船は442トン、1航海当り、13.4トンの合計1,234トンであった。昨年同期に比較するとわずかに減少しており漁況はきわめて低調であった。

**7月：** 大・中型巾着網：漁獲量は6,176トン、1日1統当り29トン、魚種の割合はウルメイワシ54%、サバ34%、マイワシ12%で、大・中羽ウルメ、小サバ主体であったが漁況は例年並に経過した。

小型巾着網：漁獲量は5,058トン、1日1統当り21トン、魚種の割合はマイワシ54%、ウルメイワシ25%、サバ14%、その他7%であり、小羽イワシ主体に大・中羽ウルメイワシを、漁獲し漁況は好調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が1,300トン、1航海当り6.5トン、冷凍船は1,480トン、1航海当り279トンの合計2,780トンであった。漁況は生船では漁獲量・1航海当りとも平年並であったが、冷凍船では漁獲量・1航海当りとも今まででもっとも高水準であった。

8月：大・中型巾着網：漁獲量は1,805トン、1日1統当り17トン、魚種の割合はマイワシ72%、ウルメイワシ12%、サバ10%、アジ2%、カタクチイワシ2%、その他2%であった。夏枯期に入り小羽イワシ主体に漁獲され漁況はきわめて低調であった。

小型巾着網：漁獲量は2,757トン、1日1統当り17トン、魚種の割合はマイワシ81%、その他13%、サバ3%、アジ2%、ウルメイワシ1%であり、小羽マイワシ主体に漁獲量は7月に比較して急減したが、8月では順調な漁況であった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が1,620トン、1航海当り7.9トン、冷凍船は1,679トン、1航海当り33.6トンの合計3,299トンであった。生船・冷凍船ともに総漁獲量、1航海当りの漁況は近年では最も高水準で経過した。

9月：大・中型巾着網：漁獲量は6,781トン、1日1統当り39トン、魚種の割合はマイワシ92%、ウルメイワシ3%、サバ2%、アジ1%、カタクチイワシ1%であった。漁況は小羽マイワシ主体にはほぼ例年並の漁獲量の経過した。

小型巾着網：漁獲量は3,256トン、1日1統当り16トン、魚種の割合はマイワシ81%、その他15%（ハマチ・マルゴ主体）、アジ2%、サバ1%、ウルメイワシ1%であり、マイワシ小羽主体にハマチ・マルゴが漁獲され漁況はやや好調に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が1,170トン、1航海当り7.0トン、冷凍船では583トン、1航海当り36.4トンの合計1,753トンであった。漁況は生船、冷凍船ともに例年並で経過した。

10月：大・中型巾着網：漁獲量は4,498トン、1日1統当り37トン、魚種の割合はマイワシ94%、サバ3%、アジ1%、カタクチ1%、その他2%であり漁況は低調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は1,213トン、1日1統当り9.1トン、魚種の割合はその他（ハマチ・マルゴ主体）72%、マイワシ19%、アジ5%、サバ3%であった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が954トン、1航海当り7.0トン、冷凍船では1,815トン、1航海当り34.2トンの合計2,769トンであった。漁獲量はここ数年では最も多く、特に冷凍船では総漁獲量、1航海当り漁獲ともにきわめて高水準であり、漁況は好調に経過した。

11月：大・中型巾着網：漁獲量は28,234トン、1日1統当り107トン、魚種の割合はマイワシ88%、サバ7%、ウルメイワシ3%であった。

11月中・下旬には漁場が日御崎NNW40～60マイル沖合に形成され、この海域においてマイワシ大・中羽を大量に漁獲したため漁況は極めて順調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は2,087トン、1日1統当り12.5トン、魚種の割合はマイワシ45%、その他（ハマチ・マルゴ）29%、カタクチ11%、サバ8%、アジ6%であり、小羽イワシ・ハマチ主体に漁況はやや好調であった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が908トン、1航海当り5.7トン、冷凍船では2,153トン、1航海当り39.1トンの合計3,061トンであった。11月には生船では例年並の漁獲水準で経過したが、冷凍船は例年の約2倍もの漁獲を示し漁況はきわめて好調に経過した。

12月：大・中型巾着網：漁獲量は2,677.8トン、1日1統当り209トン、魚種の割合はマイワシ94%、サバ4%、アジ1%、ウルメイワシ1%であった。11月につづいてマイワシ大・中羽魚群の来遊資源量が大きく、漁況はきわめて好調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は961トン、1日1統当り9.8トン、魚種の割合はマイワシ54%、カタクチイワシ31%、その他6%、サバ3%、アジ3%、ウルメイワシ2%であった。冬漁期に入り出漁日数を少なく漁況は低調であったが、美保湾内における船びき網でカタクチイワシの漁獲がやや多かった。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が157トン、1航海当り2.0トン、冷凍船では831トン、1航海当り18.9トンの合計988トンであった。漁況は好調であった11月に対して急激に減少し、生船では最低の漁獲を示している。しかし、冷凍船では黄海の漁況がやや活発であったため総漁獲量、1航海当りともに順調であった。

1月：大・中型巾着網：漁獲量は1,575.3トン、1日1統当り90.5トン、魚種の割合はサバ59%、マイワシ39%、アジ2%であった。1月に入ってサバの漁獲が増加し小・豆サバ、大・中羽マイワシ主体に漁況は好調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は516トン、1日1統当り17.2トン、魚種の割合はサバ66%、マイワシ25%、アジ4%、その他5%であった。本月は隠岐島周辺においてサバの漁獲が多く認められ、漁況は1月としてはやや良好に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船（冷凍船が漁獲した生鮮イカ水揚を含む）が480トン、1航海当り1.3トン、冷凍船82トン、1航海当り27.3トンの合計562トンであった。漁況は冬生れ群がやや増加したものの漁獲量は例年並であった。

2月：大・中型巾着網：漁獲量は1,703.5トン、1日1統当り129トン、魚種の割合はマイワシ82%、サバ16%、アジ1%であり、大・中羽マイワシ主体に漁況は極めて好調に経過した。

小型巾着網：漁獲量は632.2トン、1日1統当り24.3トン、魚種の割合はマイワシ63%、サバ33%、その他4%であった。冬期のため出漁日数は少ないが、1日1統当りでは漁獲が多くマイワシ主体に漁況はやや良好に経過した。

スルメイカ漁業：漁獲量は生船が998トン、1航海当り2.4トンで冷凍船がすべて生鮮イカを水揚しており、漁況は総漁獲量、1航海当りともに、最近10年間で最も多く好調に経過した。

3月：大・中型巾着網：漁獲量は1,067.9トン、1日1統当り81トン、魚種の割合はマイワシ96%、サバ3%であり、中羽イワシ主体に漁況ね順調に経過し近年でも最も多い漁獲を示した。

小型巾着網：漁獲量は2,944.4トン、1日1統当り35トン、魚種の割合はマイワシ92%、サバ4%、アジ2%、カタクチ1%であり、中羽イワシ主体に漁況は極めて好調に経過した。

### (3) 昭和55年における主要魚種資源の評価

#### イ マアジ

昭和55年の境港において大・中型巾着網で漁獲されたマアジは1,220トンで、1日1統当り平均漁獲量は0.5トン、総漁獲量に占める割合は0.7%であった。山陰沖合におけるマアジの資源変動は、

昭和35年より急減して、40年代には1万トン以下の漁獲量に減少し、50年代に入って2,000トン以下とその資源はきわめて低水準となった。本年も昨年に比較するとわずかに増加しているがこの海域におけるマアジ資源はきわめて低水準で経過している。

ロ マサバ

境港における大・中型巾着網で昭和55年に漁獲されたマサバは53,528トン、1日1統当たり23.5トンで全魚種に占める割合は31%であった。季節的に漁獲が多かったのは1～2月の越冬期と4～5月の産卵期に多く、8～10月には漁獲はきわめて少なかった。本年の特徴として春季産卵群の漁獲が例年に比較して半減したことと、12月における南下魚群の漁獲がほとんど認められなかったことなどがあった。

山陰沖合におけるマサバ資源は昭和45年より急増し52年には最高となったが53年には半減し本年は昨年、一昨年とほぼ同じ水準を保っており減少傾向は認められるもののその資源水準は高い。

ハ マイワシ

昭和55年の境港におけるマイワシの漁獲量は大・中型巾着網が106,098トン、1日1統当たり平均46.5トンで全魚種に占める割合は62%であり、小型巾着網では22,208トン、1日1統当たり平均12.9トンで全魚種に占める割合は64%であった。

季節的な漁獲変動は春季北上期の4～5月には1万トン台、11～12月の南下期には2万トン台の漁獲がみられ、冬季の2月と夏季の7～8月では漁獲はきわめて少なかった。

境港における大・中型巾着網のマイワシ漁獲量の経年変動は、昭和48年より増加して1万トン台となり、51～53年には3万トン台、54年には6万トン台、本年は10万トンと急増をつづけその資源は極めて高水準で経過している。

ニ ウルメイワシ

昭和55年の境港におけるウルメイワシの漁獲量は大・中型巾着網が8,574トン、1日1統当たり平均3.8トンで全魚種に占める割合は5%であり、小型巾着網では2,950トン、1日1統当たり平均1.7トンで全魚種に占める割合は8%であった。漁獲量の季節変化は大部分が産卵期の5～7月に漁獲されているが、秋季の11月にもやや多く漁獲された。

山陰沖合におけるウルメイワシの資源変動については近年やや増加がみられ、境港の漁獲よりみても本年が最も多く、その資源水準は増加傾向が認められた。

ホ カタクチイワシ

境港における昭和55年のカタクチイワシの漁獲量は大・中型巾着網が156トン、1日1統当たり平均0.1トン、全魚種に占める割合は0.1%であり、小型巾着網では775トン、1日1統当たり平均0.4トン、全魚種に占める割合は2%であった。

漁獲量の季節変動は大型巾着網では8～11月に漁獲が認められ、小型巾着網では6月に、また、船ひき網では11～12月に好魚が認められた。

山陰沖におけるカタクチイワシの資源は近年低水準で経過しており、巾着網の漁獲量はきわめて少なかった。しかし、美保湾における船ひき網による漁獲は順調でやや資源の上向きが認められる。

表 1-1(1) 1980年境港市着網漁獲高(大・中型)

((内は%))

月	かたくち		まいわし		うるめいわし		さ		あ		その他	
	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)
1	-		7,044 (35)	51.0	451 (2)	3.3	12,485 (62)	90.5	18	0.1	104 (1)	0.8
2	-		1,991 (10)	10.3	3		17,926 (89)	92.4	261 (1)	1.3	89	0.5
3	-		7,088 (71)	39.8	10	0.5	2,586 (26)	14.5	236 (2)	1.3	111 (1)	6.2
4	-		11,242 (68)	57.1	109 (1)	0.5	4,874 (30)	24.7	87	0.4	118 (1)	0.6
5	-		11,183 (58)	38.0	1,062 (5)	3.6	6,685 (35)	22.7	110 (1)	0.4	278 (1)	0.9
6	-		5,141 (49)	18.6	2,104 (20)	7.6	3,298 (31)	11.9	15			
7	-		738 (12)	3.5	3,316 (54)	15.8	2,099 (34)	10.0	12		11	
8	34 (2)	0.3	1,296 (72)	12.3	229 (12)	2.2	183 (10)	1.7	29 (2)	0.3	34 (2)	0.3
9	56 (1)	0.3	6,270 (92)	36.0	217 (3)	1.2	140 (2)	0.8	44 (1)	0.3	54 (1)	0.3
10	23 (1)	0.2	4,210 (94)	34.8			135 (3)	1.1	45 (1)	0.4	85 (2)	0.7
11	43	0.2	24,830 (88)	93.7	818 (3)	3.1	2,092 (7)	7.9	121	0.5	330 (1)	1.2
12			25,065 (94)	195.8	255 (1)	1.7	1,025 (4)	8.0	242 (1)	1.9	191 (1)	1.5
計	156	0.1	106,098 (62)	46.5	8,574 (5)	3.8	53,528 (31)	23.5	1,220 (1)	0.5	1,421 (1)	0.6

月	総漁獲高 (トン)	延出漁 総数	1日統当り (トン)
1	20,102	138	146
2	20,270	194	104
3	10,031	178	56
4	16,430	197	83
5	19,318	294	66
6	10,574	277	38
7	6,176	210	29
8	1,805	105	17
9	6,781	174	39
10	4,498	121	37
11	28,234	265	107
12	26,778	128	209
計	170,997	2,281	75

表 1-1(2) 1981年境港市着網漁獲高(大・中型)

((内は%))

月	かたくち		まいわし		うるめいわし		さ		あ		その他	
	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)	漁獲高 (トン)	1日統当り (トン)
1	0	-	6,080 (39)	34.9	5	-	9,312 (59)	53.5	289 (2)	1.7	67	0.4
2	38	-	14,038 (82)	106.1	-	-	2,826 (16)	21.4	97 (1)	0.7	36	0.3
3	0	-	10,257 (96)	77.7	0	-	356 (3)	2.7	50	0.4	16	0.1

月	総漁獲高 (トン)	延出漁 総数	1日統当り (トン)
1	15,753	174	90.5
2	17,035	132	128.8
3	10,679	132	80.9



表 2-1(1) 1980年境港市着網漁獲高(小型)

((内は%))

月	かたくち		まいわし		うるめいわし		さ		あ		その他	
	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)
1	93 (17)	2.6	205 (37)	5.7	7 (1)	0.2	245 (44)	6.8	3	0.1	5 (1)	0.1
2	1		773 (65)	14.3	-		355 (30)	6.6	52 (4)	1.0	3	
3	-		3,967 (95)	31.5	14	0.1	139 (3)	1.1	29 (1)	2.3	41 (1)	3.3
4	-		3,872 (76)	29.1	95 (2)	0.7	1,024 (20)	7.7	86 (2)	0.6	22	0.2
5			2,290 (52)	13.9	469 (11)	2.8	1,304 (30)	7.9	141 (3)	8.5	162 (3)	1.0
6	133 (3)	0.7	1,867 (45)	9.4	957 (23)	4.8	1,041 (25)	5.2	31 (1)	0.2	124 (3)	0.8
7	8		2,708 (54)	11.2	1,287 (25)	5.3	698 (14)	2.9	24	0.1	333 (7)	1.4
8			2,221 (81)	13.6	39 (1)	0.2	75 (3)	0.5	64 (2)	0.4	358 (13)	2.2
9	1		2,627 (81)	12.8	33 (1)	0.2	33 (1)	0.2	59 (2)	0.3	503 (15)	2.4
10	7		232 (19)	1.7	1		39 (3)	0.3	62 (5)	0.5	872 (72)	6.5
11	224 (11)	1.3	932 (45)	5.6	27		161 (8)	9.6	135 (6)	8.1	608 (29)	3.6
12	308 (31)	3.1	514 (54)	5.2	21 (2)	0.2	29 (3)	0.3	27 (3)	0.3	62 (6)	0.6
計	775 (2)	0.4	22,208 (64)	12.9	2,950 (8)	1.7	5,143 (15)	3.0	713 (2)	0.4	3,093 (9)	1.8

表 2-1(2) 1981年境港市着網漁獲高(小型)

((内は%))

月	かたくち		まいわし		うるめいわし		さ		あ		その他	
	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)	漁獲量 (ト)	1日統計 (ト)
1	0		131 (25)	4.4	0		338 (66)	11.3	19 (4)	0.6	28 (5)	0.9
2	0		400 (63)	15.4	0		210 (33)	8.1	1		21 (4)	0.8
3	36 (1)	4.3	2,714 (92)	32.7	0		127 (4)	1.5	51 (2)	0.6	16 (1)	0.2

月	総漁獲高 (ト)	延出漁 統 数	1日統計 (ト)
1	558	36	16
2	1,184	54	22
3	4,190	126	33
4	5,099	133	38
5	4,366	165	26
6	4,153	199	21
7	5,058	242	21
8	2,757	163	17
9	3,256	206	15.8
10	1,213	134	9.1
11	2,087	167	12.5
12	961	98	9.8
計	34,882	1,723	20.2

月	総漁獲高 (ト)	延出漁 統 数	1日統計 (ト)
1	516	30	17.2
2	632	26	24.3
3	2,944	83	35.5

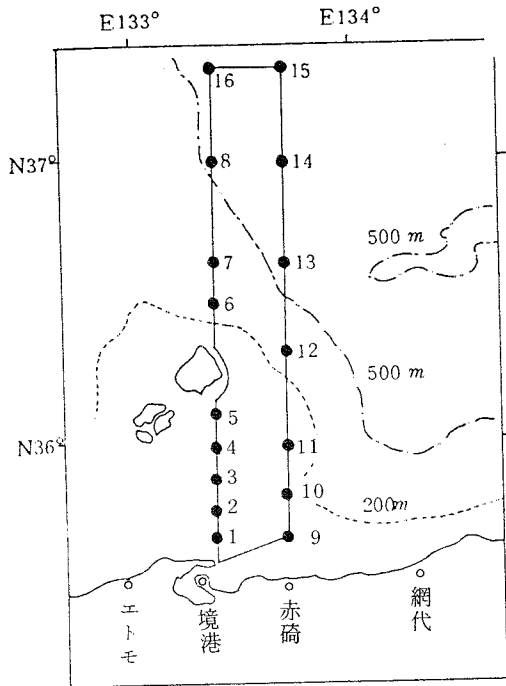


図1 沿岸定線点図

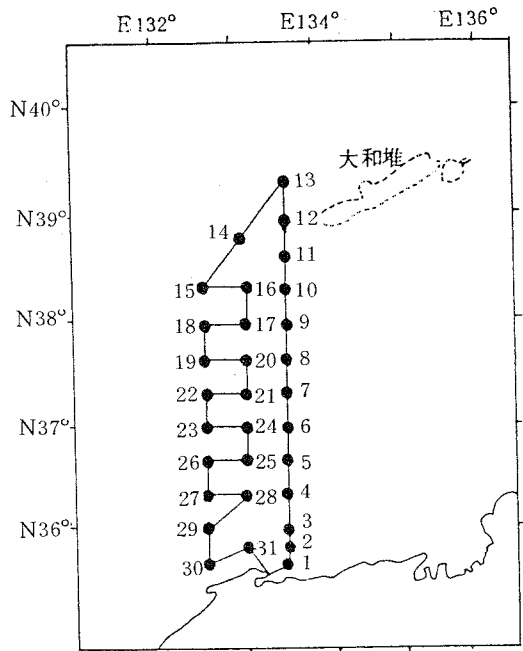


図2 スルメイカ漁場一斉調査定点点図

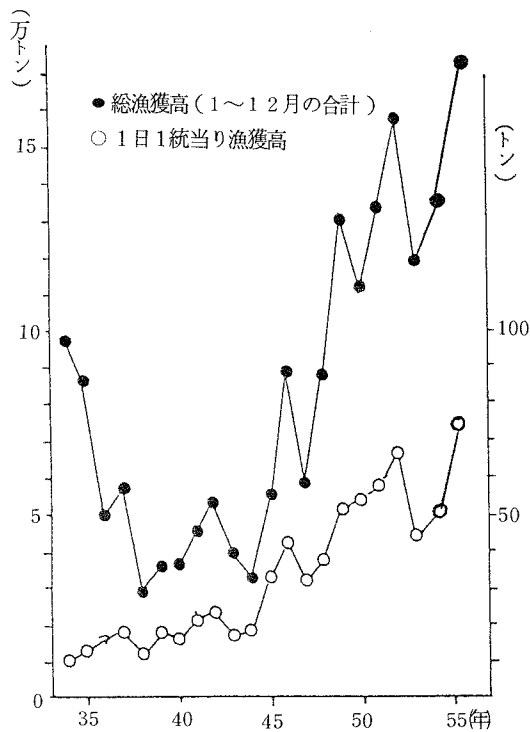


図3 境港における巾着網漁獲量の経年変化 (大・中型巾着網)

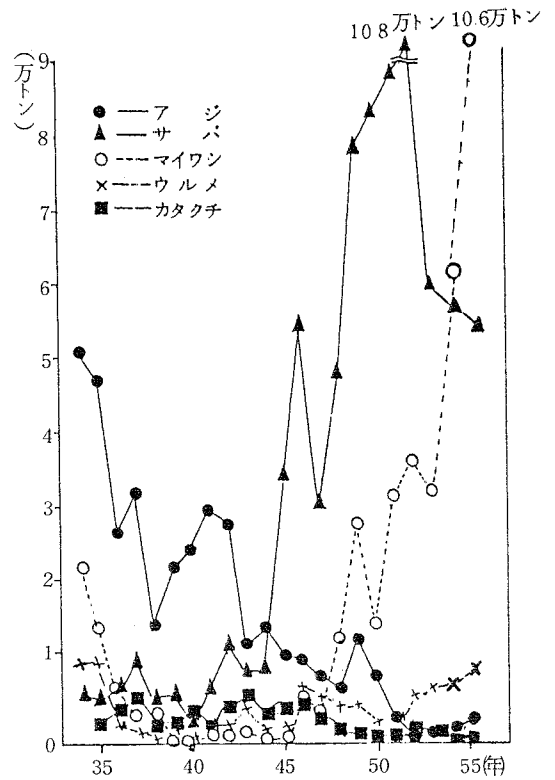


図4 境港における巾着網の魚種別経年変化 (大・中型巾着網)

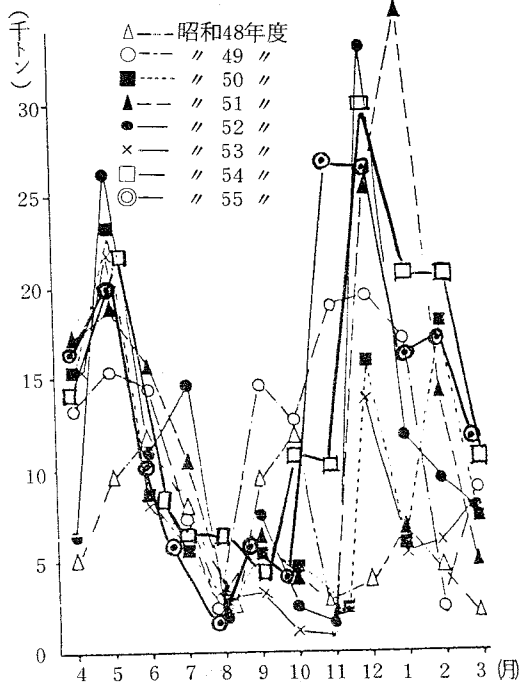


図5 境港における巾着網月別総漁獲高 (大・中型)

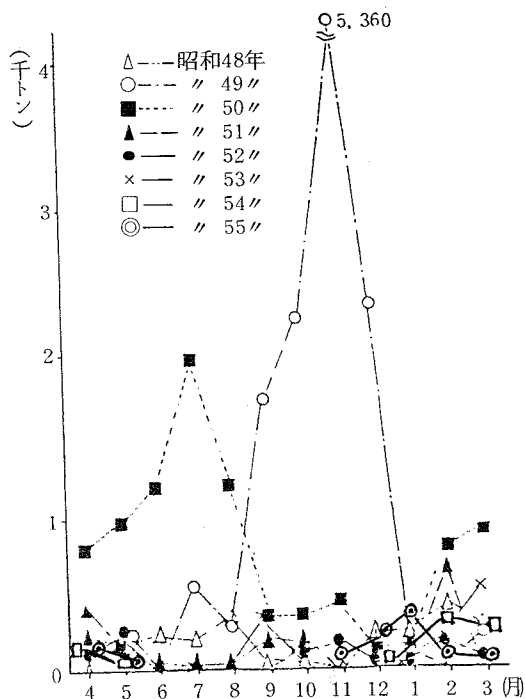


図6 境港におけるアジの月別漁獲高 (大・中型)

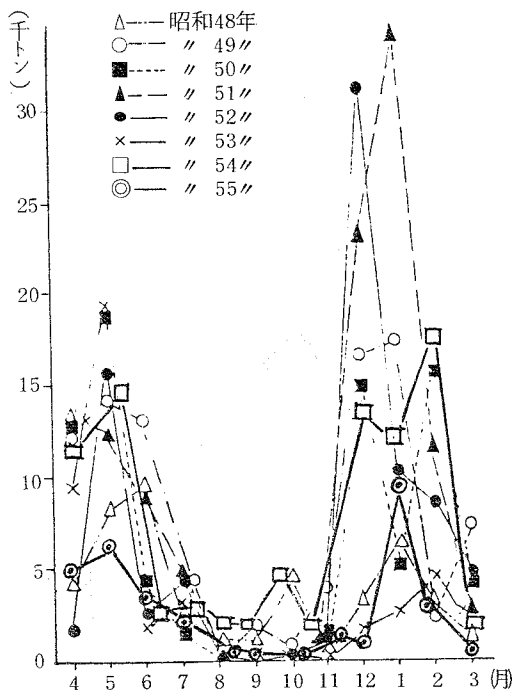


図7 境港におけるサバの月別漁獲高 (大・中型)

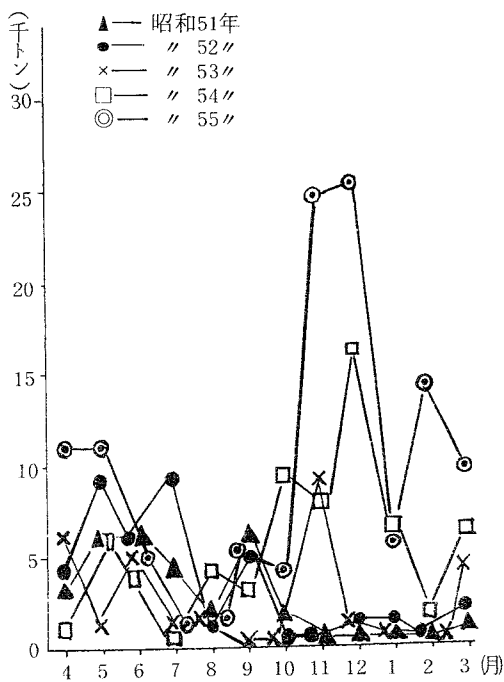


図8 境港におけるマイワシの月別漁獲高 (大・中型)

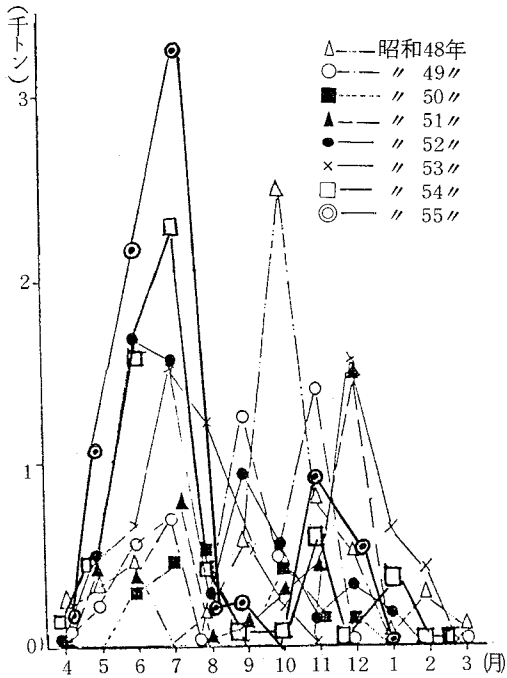


図9 境港におけるウルメイワシの月別漁獲高 (大・中型)

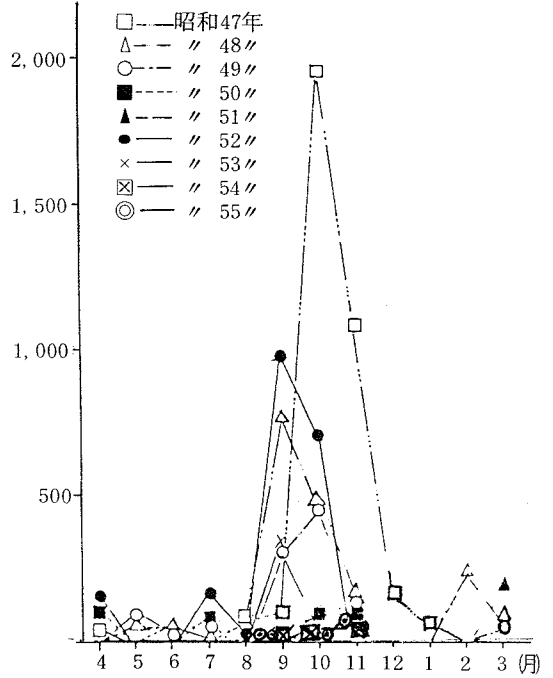


図10 境港におけるカタクチイワシの月別漁獲高 (大・中型)

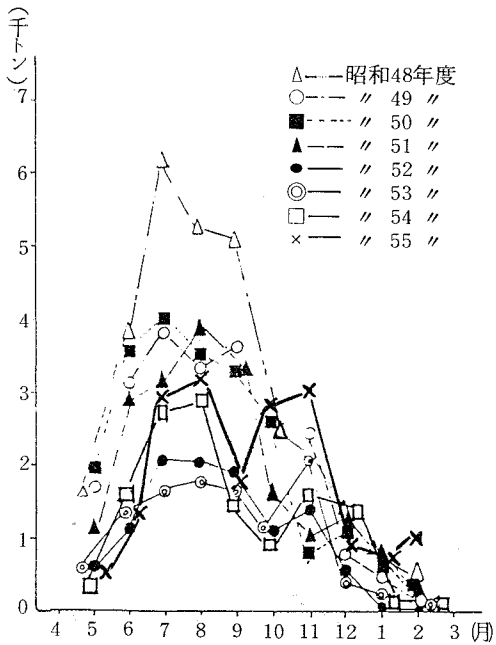


図11 境港におけるスルメイカ月別漁獲高

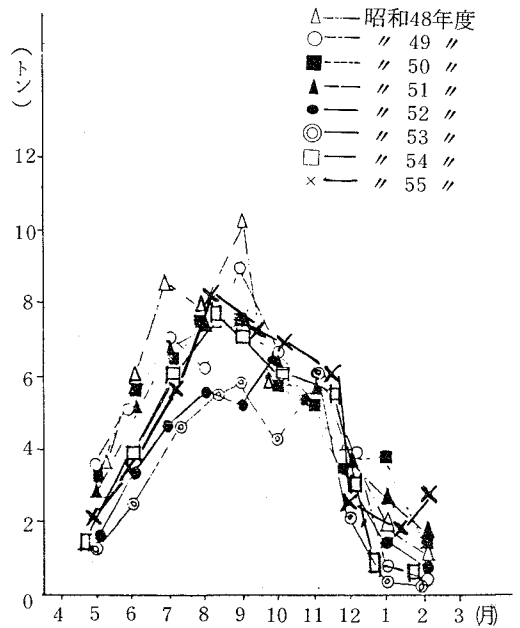
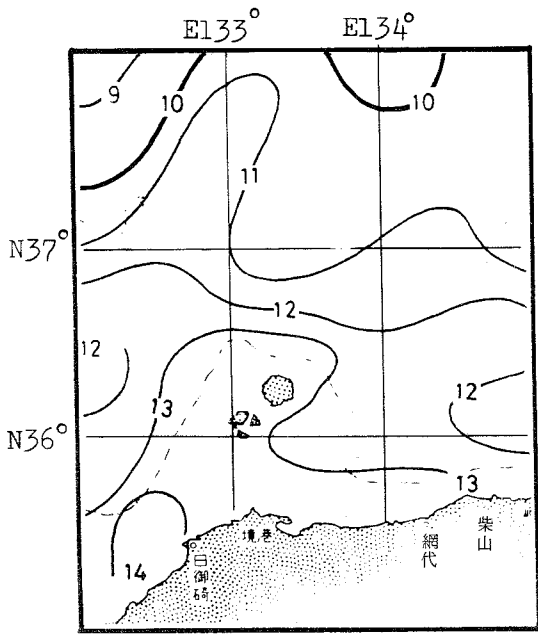
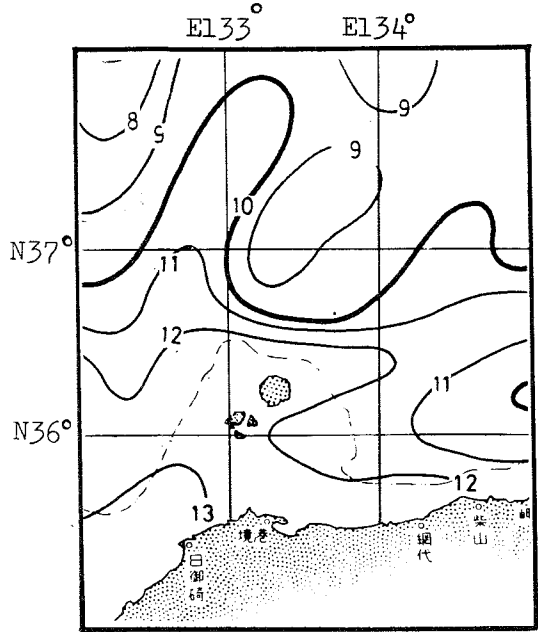


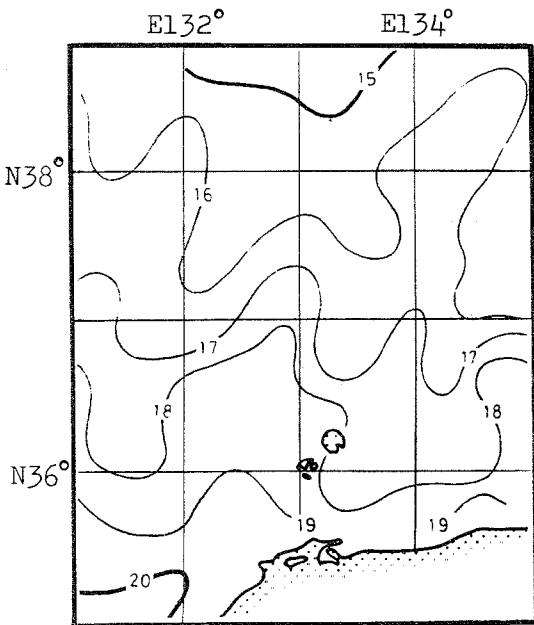
図12 境港におけるスルメイカ生船1航海漁獲量



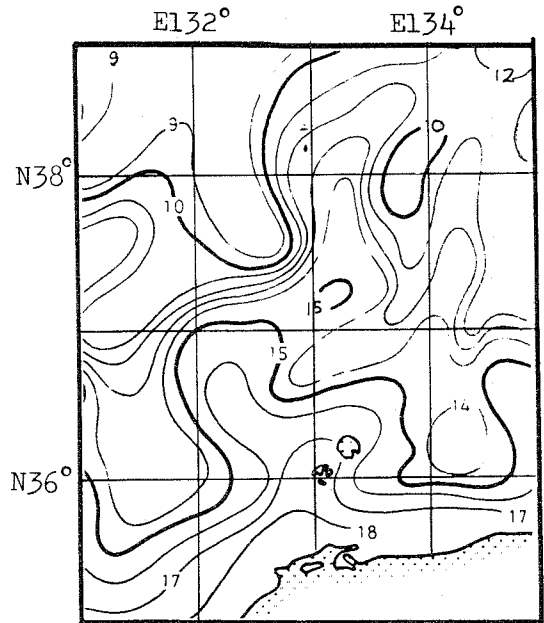
1980年4月上旬  
表面水温(°C)



1980年4月上旬  
50 m層

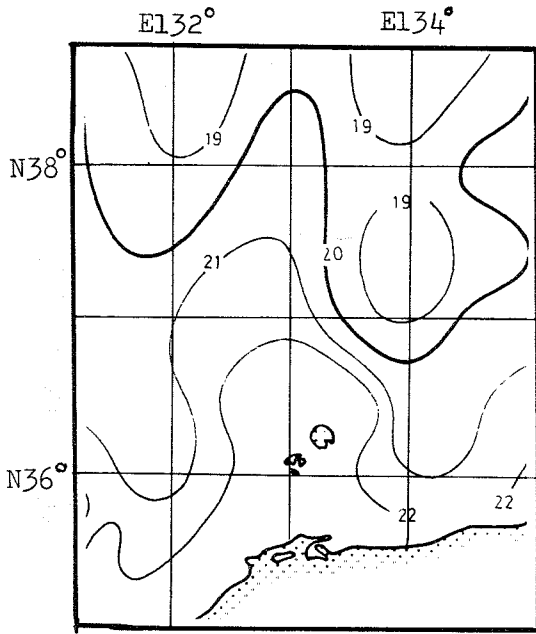


1980年6月上旬  
表面水温(°C)

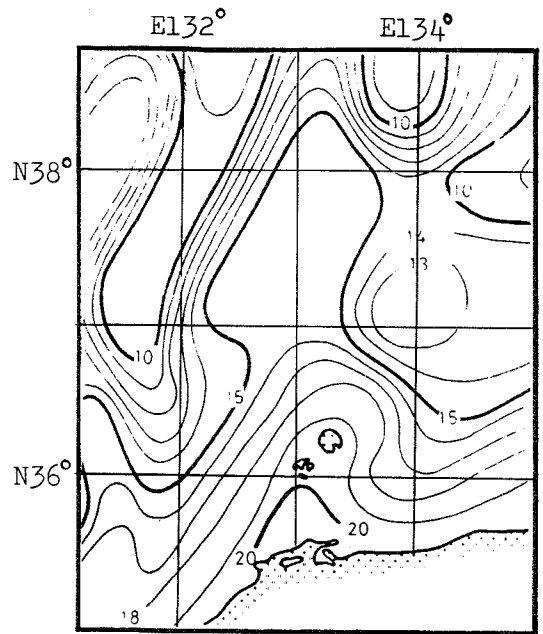


1980年6月上旬  
50 m層

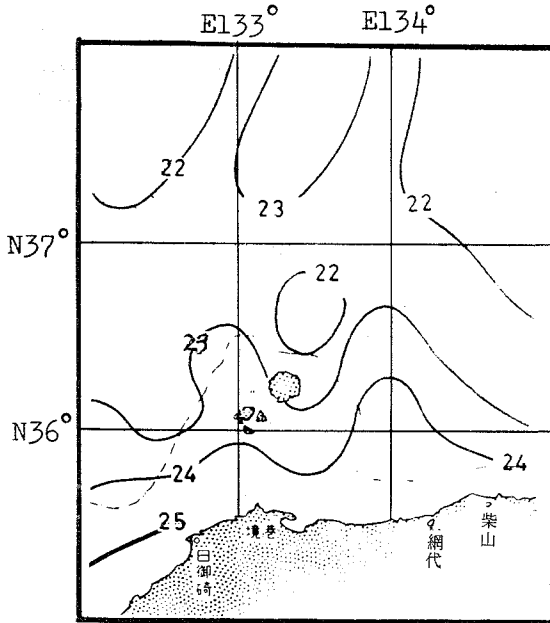
図 13-(1) 鳥取県沖合の水温水平分布



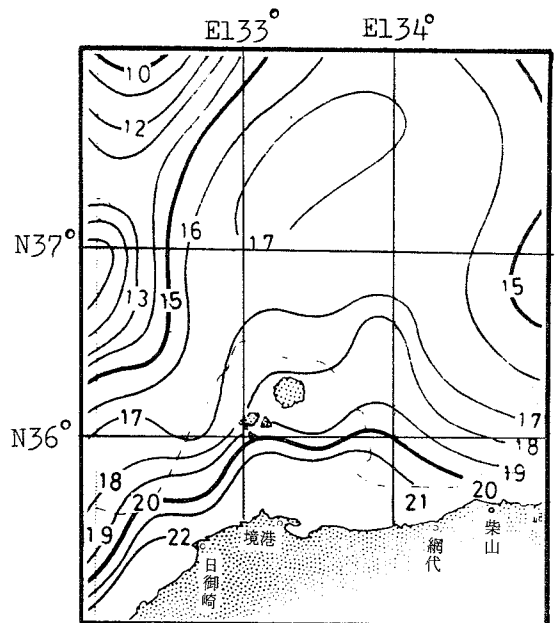
1980年7月上旬  
表面水温(°C)



1980年7月上旬  
50 m層

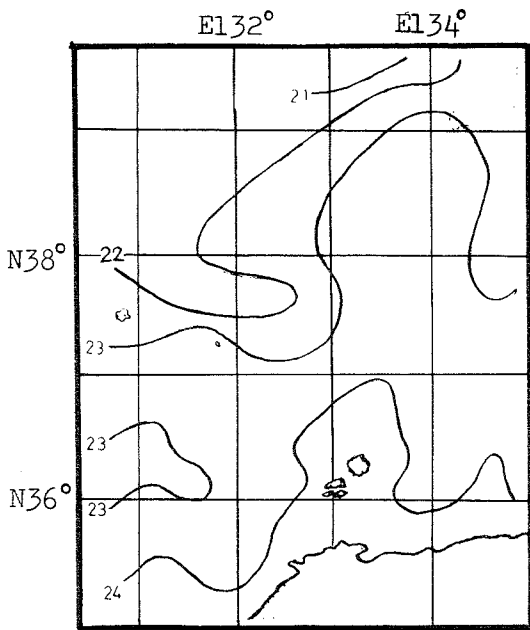


1980年8月上旬  
表面水温(°C)

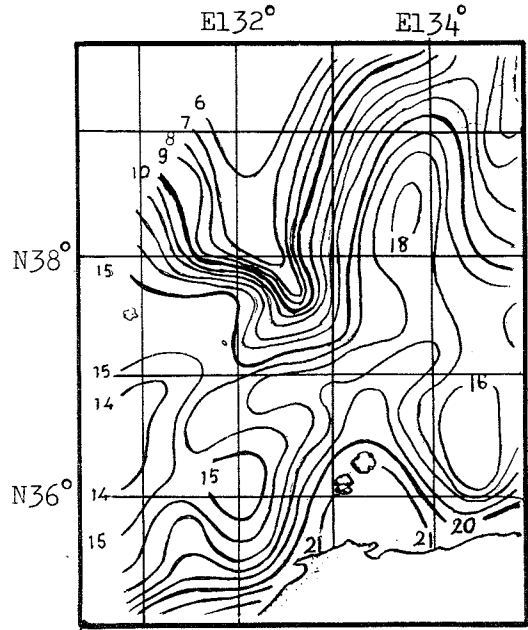


1980年8月上旬  
50 m層

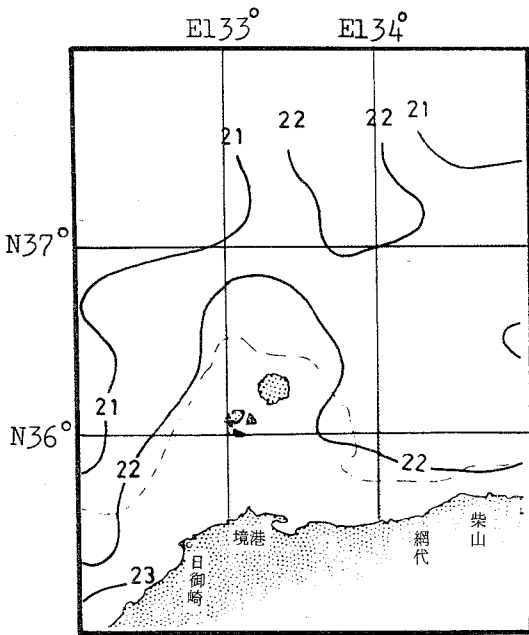
図 13-(2) 鳥取県沖合の水温水平分布



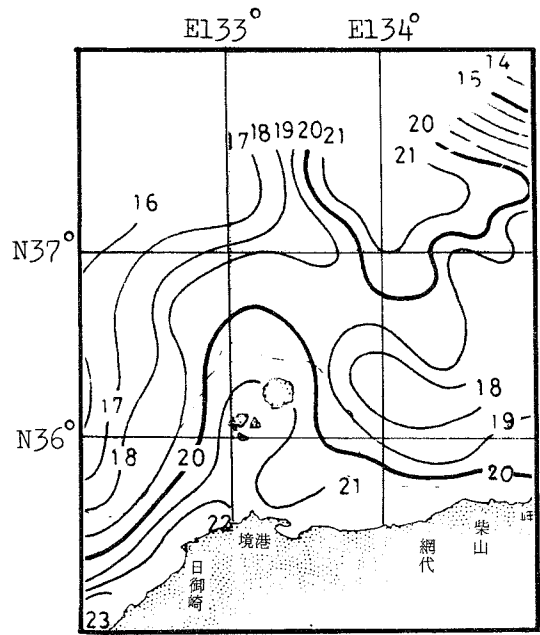
1980年9月上旬  
表面水温(°C)



1980年9月上旬  
50 m層

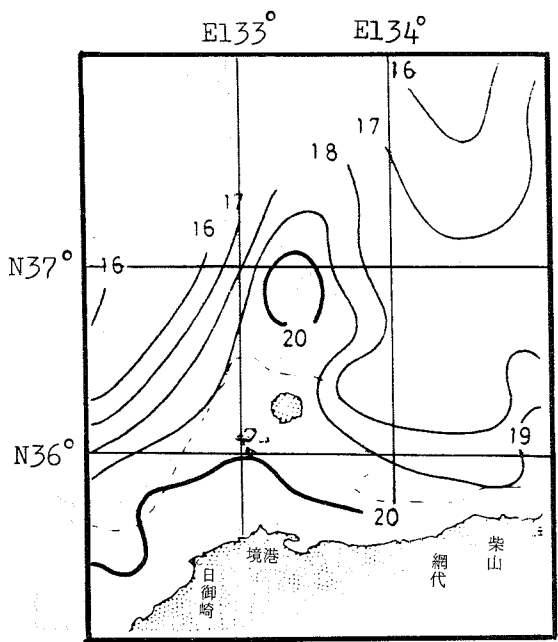


1980年10月上旬  
表面水温(°C)

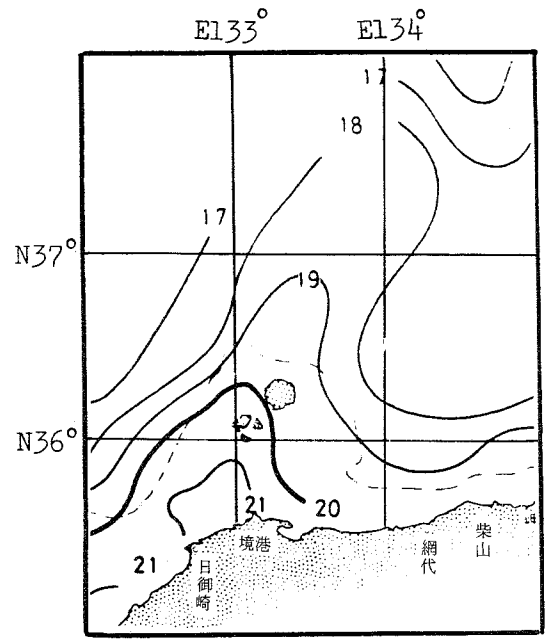


1980年10月上旬  
50 m層

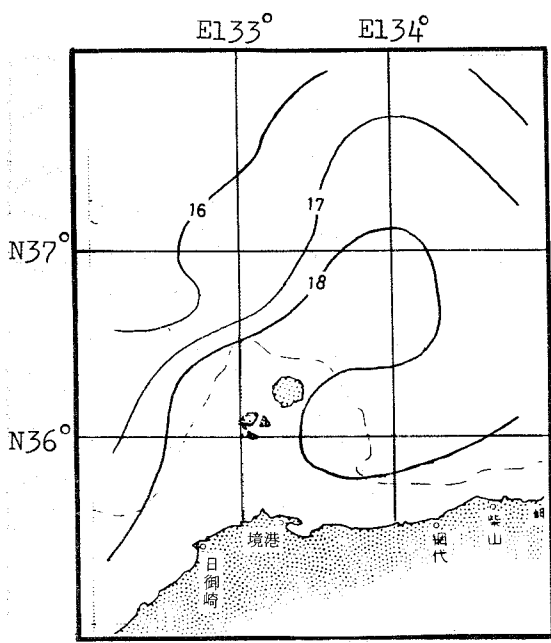
図 13-(3) 鳥取県沖合の水温水平分布



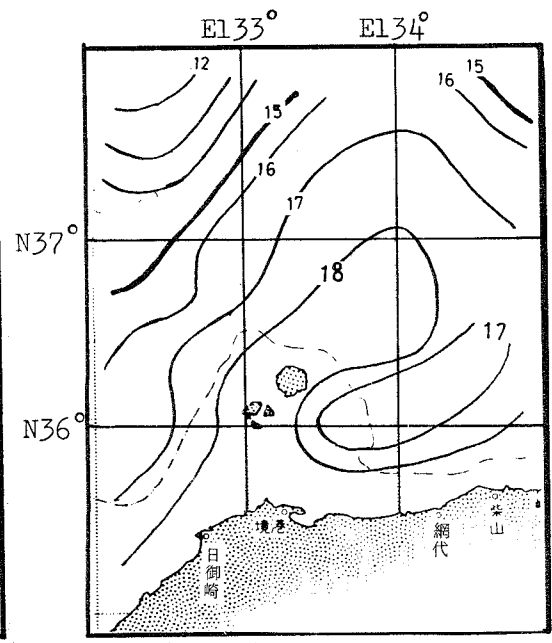
1980年11月上旬  
表面水温(°C)



1980年11月上旬  
50 m層



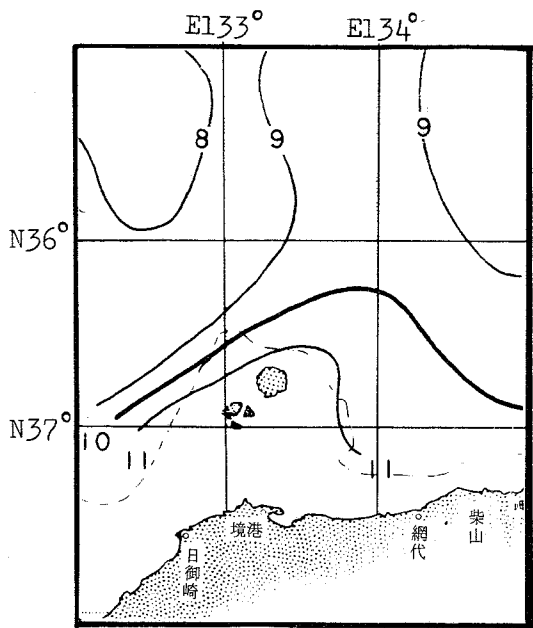
1980年12月上旬  
表面水温(°C)



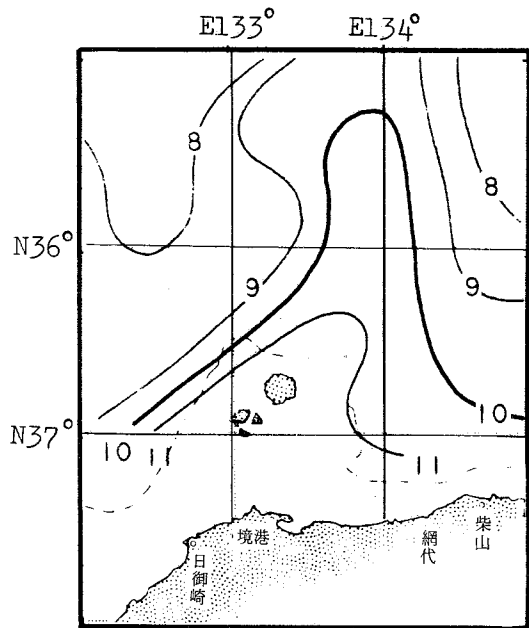
1980年12月上旬  
50 m層

図 13-(4) 鳥取県沖合の水温水平分布

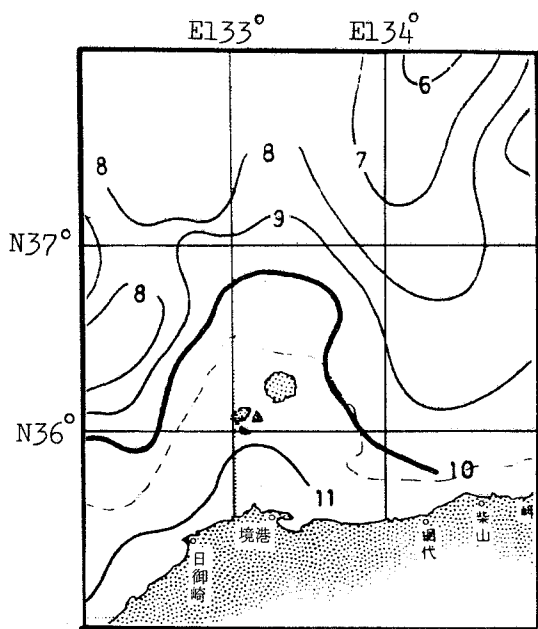




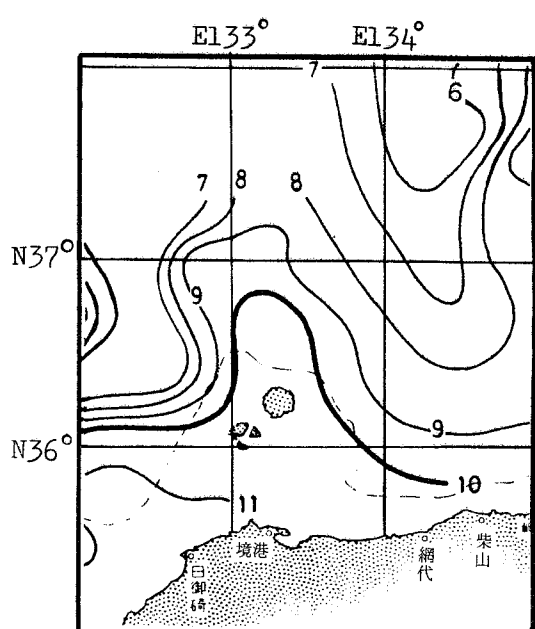
1981年2月上旬  
表面水温(°C)



1981年2月上旬  
50 m層



1981年3月上旬  
表面水温(°C)



1981年3月上旬  
50 m層

図 13-(5) 鳥取県沖合の水温水平分布

鳥取県水産試験場報告正誤表

ページ	訂正箇所	誤 (下線の部分)	正
19	上から2桁目	$上 = 1.68x - 1.64$	Y
"	"	$上 = 1.09x + 1.17$	Y
"	"	$上 = 0.89x + 1.64$	Y
20	下から11桁目	<del>ケンサキイカ・フドウ漁獲量</del> ケンサキイカ・フドウ 漁獲量	削 除 イカ
36	図5. 上から2桁目	着業 <u>総</u> 数	統